

筑波大学新聞

第359号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699
E-mail
shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

注目記事

- 自宅で簡単に睡眠の質測定
オムニバス映画3作品提出
- 硬式野球リーグ戦優勝校に勝利
「検証春のオンライン」下
団体での課外活動再開

11 10 9 5 2

特集

雙峰祭・やど祭・スポデー中止
どうなる学生文化 6・7

ミニ特集

オンライン化進む大学新聞
コロナ禍で影響も 3

次期学長予定者に永田学長

再任で通算11年在任へ

筑波大学長選挙(河田第一議長)は10月20日、次期学長予定者に現職の永田恭介学長を選出した。新学長は2021年4月1日に文部科学省から任命される予定で、任期は24年3月末までの3年間。永田学長は今回の再任で、開学以来最長となる11年間、学長を務めることになる。

学長選挙 2020

学長選挙は、永田学長が来月3月で任期満了となることに伴うもの。選挙会議は永田学長の再任について「教育研究活動を適切かつ効果的に運営すること」ができる能力と情熱、実行力を有し、筑波大学の卓越性を高めることができる者として認めたい」としている。

学内の役職教員らで構成する教育研究評議会は9月17日、永田学長と松本宏・生命環境系長の2人を候補者として選挙会議に推薦していた。経営協議会の学外委員も学長候補を推薦できるが、今回はなかった。



次期学長予定者に決まった永田恭介学長(10月21日、大学会館特別会議室で) = 西村大祐撮影

(西村大祐)人文学類3年、後藤佳博(II)社会学類3年、2面に関連記事)

同評議会は、国立大学法人法により選挙会議が学長を選考する責任と権限を有していることを確認し、選挙会議に2人を学長候補として推薦した。

選挙会議は学士会館(東京都千代田区)で、20日午後3時10分から約4時間半にわたって開催された。経営協議会の学外委員10

人が投票し、対案者の10.7%が永田学長に、17.5%が松本系長に投票した。



選挙理由を説明した河田第一議長(10月21日、大学会館特別会議室で) = 西村大祐撮影

人と教育研究評議会のメンバーや理事など学内委員14人の計24人で構成され、全員が参加した。両候補に15分ずつ面談し、質疑応答もそれぞれ40分ずつ行った。その後、全委員で審議をした上で、無記名投票が行われ、1回目でも3分の2以上

を得た永田学長の再任が決まった。10月21日には記者会見が開かれ、河田議長、永田学長、稲垣敏之副学長(総務・人事担当)が出席した。オンラインで参加した河田議長は「2候補のプレゼンテーションや面談での受け答えにはかなりの差があった。今回の制度改正は15年から積み重ねた議論に促ったものだ」と振り返った。

永田学長は「新型コロナウイルスの感染拡大で、あらゆる分断が見えてきた。分断を乗り越えるすべを見つめるのがアカデミアの役割で、そのためにも多様な分野を守りたい」と抱負を語った。

今後の3年間は、これまで進めてきた国際性と学際性の向上に加え、「大学ランキングなど固定化した学問や大学、社会の序列を変えたい。それぞれの大学が個性を出して活動することが重要で、これらを率先していきたい」と話した。

意見聴取で松本系長の票数が上回ったことについては「結果の意味と結果をもたらした過程について」の充実を図る「チュートリアル教育」を実施する方針を掲げた。

筑波大 指定国立大学法人に 40年度までに若手教員3割へ

文部科学省は10月15日、筑波大を指定国立大学法人に指定したと発表した。地球規模の問題を解決する「真の総合大学」となることを構想し、学長の強いリーダーシップの下で、目指すべき方向性や取り組みが学際的に浸透していることが評価された。東京医科歯科大も同時に指定され、指定国立大学法人は9大学となった。

指定国立大学法人は、世界的有力大学と肩を並べる大学を指定し、研究力や人材育成能力の強化、イノベーションにつなげる制度として2017年度に始

まった。指定されると規制緩和の対象となり、出資対象範囲が拡大したり寄付金などを除く1600人の学生に、1600人の教員が個別指導にあたり、学際教育

の充実を図る「チュートリアル教育」を実施する方針を掲げた。また、課題となっている若手教員比率の向上を図るため、40年度までに新たに900人規模で採用を進め、全教員の30%まで増やす。研究成果の社会実装を進めるため、企業との研究部門と一体化した「B2A(Business to Academia)研究所」なども設置する計画だ。

文科省は昨年10月、22年度からの第4期中期目標期間に向け、指定国立大学法人を新たに公募した。筑波大、九州大、東京医科歯科

2年連続の箱根出場逃す 18秒届かず 猿橋は全体6位

来年1月2、3日に開催される第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の出場大学を決める予選会が10月17日、陸上自衛隊立川駐屯地(東京都立川市)で開かれた。筑波大は予選通過ラインの10校にあと一歩及ばない11位となり、2年連続62回目の箱根駅伝出場を逃した。10位・専修大とのタイム差は18秒だった。

(大和祐菜)II障害科学類2年、8面に関連記事)

予選会には各校12人の選手が出場し、そのうち上位10人の合計タイムで競う。感染対策で無観客開催となり、立川駐屯地を周回するコースに変更された。筑波大は、猿橋拓己(社会学部4年)が1時間1分43秒でゴールし、全体6位と

箱根駅伝予選会上位10校は以下の通り。▽順天堂大▽中央大▽城西大▽神奈川大▽国士館大▽日本体育大▽山梨学院大▽法政大▽拓殖大▽専修大



予選会で快走を見せた猿橋(右) 写真:月刊陸上競技

筑波お話し

筑波大は18秒差で2年連続の箱根駅伝出場を逃した。だが、桐の葉を胸にした2人のエースが、先頭集団を引っ張る映像に釘付けになった駅伝ファンも多いはずだ。チームとしても12人中11人が自己ベストを更新した。平坦な周回コースで、雨で気温が下がる好条件だったが、好タイムの理由はそれだけではない。試合後、上道彬岳・駅伝主務(地球4年)に電話インタビューし、そう気づいた。「タイムが遅い選手がチーム内でいかに価値を持てるか」をずっと考えてきたと言った。元々は選手だったが、昨年の5月からフレイグマネージャーに転向。練習のサポート役を務め、「箱根を目指す覚悟はあるのか」とチームの意識改革を迫った。今年は、そんな彼に共鳴した3年生5人が新たにプレイングマネージャーとなった。選手のタイム計測やランニングフォームの撮影など、走り以外でもチームに貢献する。大土手(専修大)は、彼らの存在がチームを盛り上げてくれたと感謝する。4月に実家に帰った直後に緊急事態宣言が出され、つくばに戻れなくなった。リモートで大学新聞の取材活動に参加はしたものの、1人だけ取り残されたような気分になった。でも、どんな状況でも、自分の役割を主体的に考えることができれば、見えないはずがなくなり、チームの総合力は上がる。知った。来年の予選会が楽しみだ。

オンライン化進む大学新聞 コロナ禍の影響も

学生が取材し、記事を書き、編集する。全国の大学には個性豊かな大学新聞が存在し、キャンパスの今を伝えてきた。だが、インターネットの発達やコロナ禍で、活動の停止や見直しを迫られた新聞もある。各地の大学新聞は今後、どうなっていくのか。どうあるべきなのか。学生記者たちの取り組みを追い、識者に意見を聞いた。(西村大祐、人文科学類、天野隼太、山田優芽、梅津拓人、比較文化学類、車谷郁美、後藤佳佳、社会学類、関根健史、加藤優花、国際総合学類、大和拓菜、障害科学類)

東京大学新聞

東京大学新聞は1920年に帝国大学新聞として創刊した。東京大生らで構成する「公益財団法人東京大学新聞社」が週一回約1万部を紙媒体で発行、販売している。公益法人の形態をとる学生新聞はほかにない。



「東大新聞オンライン」のトップページ(10月28日、本紙編集室で) = 後藤佳佳撮影

2014年に「東大新聞オンライン」を開設し、ウェブサイトで発信を始めた。現在は「デジタルファースト」を掲げ、速報性の高い話題はウェブで先行報道するなど、重点がオンラインに移行しつつある。編集長が紙媒体の責任を兼ねるが、オンラインの責任者は別にいる。編集部員は約30人で、媒体の区別なく柔軟に対応している。

「デジタルファースト」推進

最近では学長選挙に関する特設サイトを設け、速報や社説を連日のように掲載した。オンライン掲載記事を再構成して紙面化することも多い。より緊急性が高い速報はソーシャル・ネットワークキングダム(サージクスNS)で配信している。編集長の東京大文科三類2年、中野快紀さんは、紙媒体は「いずれなくなる」と考えている。「記事の分量や締め切りが厳密な紙媒体とは異なり、時間をかけて取材し、事実を深掘りできるのもオンラインの利点だ。紙面では収容しきれない規模の連載記事など、オンライン独自のコンテンツも増やしていききたい」と語った。

法政大学新聞



ウェブサイトで公開している「新歓号」(10月28日、本紙編集室で) = 西村大祐撮影

法政大学新聞はコロナ禍の大きな影響を受けた。法政大学新聞もその一つだ。同紙は昨年12月まで年4回、毎月1500部を発行していた。だが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、4月に学生の学内への入構が禁止された。4月20日発行の「新歓号」は紙媒体での提供を断念し、ウェブサイトのみに公開した。現在も入構禁止は続き、紙での発行再開は見通せないという。そこで力を入れ始めたのが電子版だ。以前は一部の記事だけをウェブサイトで公開していたが、新歓号以降は全ての記事を公開している。紙媒体の記事は結論を先に書くのが一般的だが、電子版では、記事全体を読んでもらえるよう結論を最後に掲載している。

北海道大学新聞

休刊と廃刊を乗り越え、2018年4月にウェブサイトで復刊したのが北海道大学新聞だ。現在は2カ月ごとに発行している。創刊。国立大学の大学新聞としては東京大、京都大に次ぐ歴史を誇る。しかし、2007年に部員不足で休刊した。11年4月に発行が再開されたが、新入生に存在を知ってもらうため、今年5月に1500部を無料配布した。現在同紙を発行する「北海道大学新聞編集部」は、17年6月から知人を集めて復刊準備を進めた。OBからレクチャーを受け、学生同士で勉強会も重ねた。そして18年2月に取材を開始。同4月5日に復刊した。印刷費や紙面配布の手間を省くため、ウェブで情報発信することにした。



風景写真を載せたカレンダー(左)と紙媒体で発行された「北海道大学新聞」(右) = 北海道大学新聞編集部提供

当初の部員は4人で未経験者ばかりだったため、記事の執筆や編集など技術面の不安が大きかった。現在の部員も6人で、少人数での新聞製作が続く。新聞が持つ硬い印象を払拭し、多くの人に興味を持ってもらうべく、19年には大学の風景写真を載せたカレンダーを制作、販売した。発行継続に向け、北海道大学新聞の新たな形を模索中だ。

関東学生新聞連盟

大学を越えて学生記者たちが交流し、切磋琢磨しながら紙面の質を高めていく。関東学生新聞連盟には、関東の九つの大学新聞が参加する。本紙もその一つで、他に青山学院大、慶應義塾大、上智大、東京大、東京経済大、東京理科大学、法政大、一橋大の各大学新聞が加盟している。

大学越え情報共有

活動の中心は、各大学新聞の記事を毎月講評し合う定例会だ。講評では、記事の内容や取材方法などについて意見が交わられる。食卓や学内施設など、共通テーマを設け、他大学の状況と比較しながら伝えられるのが魅力だ。また、例年12月には朝日新聞社と大学新聞コンテンツを共催する。コンテンツでは、朝日新聞の記者が記事を審査する。プロの視点から意見をもらえることがメリットの一つだ。代表を務める一橋大社会学部2年の近藤由宇さんは「コロナ禍での活動や学長選挙など、各大学に共通する話題は多い。各紙の取り組みを共有し合える場を設けていきたい」と語った。

UNN関西学生報道連盟

複数の大学新聞が協力して新聞を製作・発行する場として公開した。紙面は8面構成で、6面



UNNに加盟していた大学新聞の紙面(10月29日、本紙編集室で) = 西村大祐撮影

資金・人材難で休止

星条旗新聞は、国防総省や米軍の動向を兵士や退役軍人らに伝えており、軍の規制や検閲を受けない。同紙の意義には、組織や関係者の情報共有、人的交流の促進、忠誠心や誇りの向上、気持や方針の統一、活動の記録——の五つがある。大学新聞の意義にも共通点がある。部活動の試合結果や研究活動の成果などを伝え、記録することは特に重要な。読者でもある学生の活躍を紹介すれば、他の学生の刺激となり、活動が活発化する。それぞれの役割が似ている。

卒業生を読者に

卒業生や大学のファンなど、これまで全く異なる新たな読者と価値や役割を創出することを目的にすべきだ。そこで購読料や広告料を生み出すことも考えたらよい。

識者に聞く

メディア論が専門の村上信夫・茨城大教授に、大学新聞の意義やオンライン展開の在り方などについて聞いた。(聞き手・西村大祐、車谷郁美)

星条旗新聞は、国防総省や米軍の動向を兵士や退役軍人らに伝えており、軍の規制や検閲を受けない。同紙の意義には、組織や関係者の情報共有、人的交流の促進、忠誠心や誇りの向上、気持や方針の統一、活動の記録——の五つがある。

新聞発行モデルの再構築については存続につながるのではないかと。資金難や人員不足で休刊・廃刊する大学新聞も出てきているが、各紙で背景は異なるが、今こそ原点に返り、①どんな情報を届けた②どんな情報を探しているのか③求められている情報は何か④どう情報を集め、編集するのか⑤どんな媒体を使って発信するのか⑥どう運営を継続するのか⑦の五つを問い直す。

休廃刊乗り越え復刊

休刊と廃刊を乗り越え、2018年4月にウェブサイトで復刊したのが北海道大学新聞だ。

休廃刊乗り越え復刊

休刊と廃刊を乗り越え、2018年4月にウェブサイトで復刊したのが北海道大学新聞だ。

休廃刊乗り越え復刊

休刊と廃刊を乗り越え、2018年4月にウェブサイトで復刊したのが北海道大学新聞だ。

記者の声



西村大祐

学長予定者決定

「真の総合大学」実現を

まずは学内の融和から

永田学長の再任が決まった。大学新聞の記者として、コロナ禍での大学の在り方や教員数減少対策などを巡り、何度かインタビューしたことがある。

どんな方向から質問を投げかけても、即座に答えを打ち返す頭の回転の速さと、取材の最後に「学生と話すのが一番好きなんだよ」と語る姿が印象的だった。

折しも、「真の総合大学」を目指し、筑波大が文部科学省から指定国立大学法人に指定され、長年の強いリーダーシップの下で、目指すべき方向や取り組みが全体的に浸透している」と評価された。大学もポストコロナの取り組みが問われる今こそ、そのリーダーシップを発揮し、筑波大を学生や教職員にあって更に魅力ある存在にしていく。

個人の注目を浴びるのは「チュートリアル教育」だ。これは、医学部などを除く1600人の学生に1600人の教員を配置し、個別指導するもので、学際教育を充実させることが主目的だ。

筑波大には既に、教員1人が持つ課題を解消する妙案ではなにか。

永田学長はこれまで7年半、筑波大のトップとして改革を先導し、指定法人の審査でも「学

不適切などの批判が出ていた。一学生としては、学内に分裂が残ったままでは今後の大学運営や教育研究に支障をきたすのではないかと心配にもなる。

永田学長は学長選考会議後の会見で「新型コロナウイルスの感染拡大で、世界の分断が見えてきた。それを乗り越えるのがアカデミアの役割だ。多様な学問分野を守りたい」と話した。

教員の多様性を確保しつつ、学内の分断を解消することも学長の大きな役割だろう。

もちろん、筑波大には、「真の総合大学」としてさまざまな分断を解消する役割がある。そのためにも、永田学長には、何よりも先に学内融和に力を注いでほしい。今後の改革を進める上で、強い支えになるはずだ。

今回の学長選考過程を巡っては、一部の教職員から手続きが

筑波時評

全世界での1日ごとの新型コロナウイルス感染確認数は増加傾向にあり、収束は見通せない。そんな中、国連の専門機関である世界保健機関(WHO)は新型コロナウイルスへの対応の遅れを批判されている。新型コロナに対応するために、WHOにはどんな役割があるのか、そして今後国際社会はいかに新型コロナに対応すべきかを論じていく。

WHO事務局長は、WHO憲章第21条に基づいて国際保健規則を要請できる勧告である。この「国際的に懸念される

WHOとコロナ 国を越えた協力推進 長期的視点で対策を

WHOは2020年1月30日に、新型コロナウイルスに当たることの見解を示したが、この時点での旅行や貿易の制限は必要ないとした。この見解は、新型コロナが初めて報告された中国に配慮したものであり、旅行や貿易の制限を要請すべきだったとの批判がある。重要なのが、PHEICの制度に

WHOは2020年1月30日に、新型コロナウイルスに当たることの見解を示したが、この時点での旅行や貿易の制限は必要ないとした。この見解は、新型コロナが初めて報告された中国に配慮したものであり、旅行や貿易の制限を要請すべきだったとの批判がある。重要なのが、PHEICの制度に

おける国家の役割である。WHOがPHEICに基づいて各国に「暫定的勧告」を行う際には、事実上直接関係する国家の見解を考慮することになっている。すなわち、今回であれば中国の意向が反映される制度なのである。

では、WHO及び各国はどのように新型コロナに取り組み

反射鏡

秋学期、どのくらい大学来る？

コロナ禍の中、2020年度の秋学期が始まった。対面授業が一部始まり、大学から自粛要請が出されていた課外活動も再開しつつある。だが、授業の大半はオンラインのまま。筑波大生はどのくらいの頻度で、何のために大学に来るのか。中央図書館などで対面授業や、オンライン会議システムを併用して聞いた。(山田優芽 比較文化学類1年、後藤佳怡 社会学類3年、関根健史 国際総合学類1年、田所涼 教育学類3年、中山友明香 生物学類1年)

【体育1年・男性】 対面授業は週1回の体育。義の良いところだ。日本語だけでなく、硬式野球部の練習があり、ほぼ毎日大学に。ながら授業をしたかったと来る。オンライン授業は好き。話していた。

【数学3年・男性】 大きな時間に受けられる。対面授業が週2回ある。め、日中に自主練習することができ、むしろ都合が良い。一つはオンラインでも対面でも受講できるが、春学期対面で行われる体育と、対面でもオンライン授業はから本語学の授業のため、週2だったのが、変化が欲しい。家

【心理1年・男性】 読んでいないため、政治に。関する情報を得ていない。な。社会の無駄をなくす。イメージもあり、政治に。中央省庁だけでなく、地方に。いて考えることは特にな。も改革を波及させては。い。

【教育1年・女性】 現在就職活動中だが、学業との両立が難しい。就活



イラスト = 田所涼 (教育学類3年)

【生物1年・男性】 国民の声が届いている。実感できる政治を期待する。社会の中で苦境に立たされている人への支援を拡充してほしい。

【人文3年・女性】 安定した政権であった。安倍内閣は7年8ヵ月わたる長期政権だった。弊害も指摘されたが、安定していたからこそ災害

新内閣に望むこと

歴代最長の在職日数を誇った安倍晋三首相(当時)が病気を理由に退陣し、菅義偉内閣が発足した。筑波大生は新内閣に何を望むのか。中央図書館前などの対面取材と、オンライン会議システムを併用して聞いた。(西村大祐 人文学類3年、天野隼太 比較文化学類1年、小栗あおい、小菊日怜 社会学類1年、大和祐菜 障害科学類2年)

【心理1年・男性】 読んでいないため、政治に。関する情報を得ていない。な。社会の無駄をなくす。イメージもあり、政治に。中央省庁だけでなく、地方に。いて考えることは特にな。も改革を波及させては。い。

【教育1年・女性】 現在就職活動中だが、学業との両立が難しい。就活



秋山肇

助教(平和研究・国際機構論)

人文社会系・助教。国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科修士。博士(学術)。立命館大学国際関係学部嘱託講師などを経て、20年ぶりの現職。

【地球2年・女性】 現在就職活動中だが、学業との両立が難しい。就活

【生物1年・男性】 国民の声が届いている。実感できる政治を期待する。社会の中で苦境に立たされている人への支援を拡充してほしい。

【人文3年・女性】 安定した政権であった。安倍内閣は7年8ヵ月わたる長期政権だった。弊害も指摘されたが、安定していたからこそ災害

【生物1年・男性】 国民の声が届いている。実感できる政治を期待する。社会の中で苦境に立たされている人への支援を拡充してほしい。

【人文3年・女性】 安定した政権であった。安倍内閣は7年8ヵ月わたる長期政権だった。弊害も指摘されたが、安定していたからこそ災害

「希望」をテーマにオムニバス映画

120大学参加 筑波大から3作品

新型コロナウイルスの感染拡大で創作活動が制限される中、全国の大学生から映像作品を集めてオムニバス映画を作る企画「突然失礼致します！」に、筑波大学THK筑波放送協会と「筑波大学V.I.C.C.映画をつくる会」が参加した。「希望」をテーマに3作品を制作、提供した。

(半田美乃理)社会学科1年、遠子内早紀(教育学科3年)

群馬大映画部の部長、熊一たい気持ちはみんな一緒、谷宏彰さんが企画した。コダと発案した。4月21日、コロナ下で他大学の映像制作に、関東30大学の映像制作サークルとオンラインで交流会を開いた交流会で、提案し、その後、企画の輪

制作期間は5月中旬から7月中旬で、120大学から、アニメーションやミニドラマなど180作品が集まった。テーマを希望に決めたのは「コロナ禍で社会が求めているもの」の一つで、抽象的なテーマの方が多様な作品が集まりやすいと考えたからだ。

フォンのカメラで日記のように記録していく作品だ。監督の山下ひさ乃さん(資源2年)は、「生活範囲が狭まった中でも、日々を積み重ねることで小さな希望を見つけれられる。見た人に『明日いいことが起きるかも』と思ってもらえたらうれしい」と、作品に込めた思いを語った。



田所さんの作品「漂う過去、浮かぶ今」=本人提供

「Don't give up!」は脚本と監督を務めた藤井綾乃さん(知識2年)の実体験を交えたラジオドラマ。何かに追い詰められている女性と、彼女を励ます女性の掛け合いが

だが、自宅録音でも綺麗な音声が録音できて驚いたと、コロナ禍での新たな発見を語った。筑波大学V.I.C.C.映画をつくる会からは、田所涼さん(教育3年)が「漂う過去、浮かぶ今」を提供した。

田所さんは、大学生活が忙しく、映画を作れていなかった。「作りたいけど作れない」というモヤモヤを吐き出そうと参加を決めた。コロナ禍での田所さんの暮らしを撮った映像に、高校時代に制作した映像やテ

新しい日常のサポートに

芸術系 ウェブサイト開設

筑波大芸術系は、コロナ禍に苦しむ社会に芸術を通して貢献しようと、新たなウェブサイトを開設した。教員や学生約20人が参加し、親子で楽しめる粘土細

る妖怪アマビエをモチーフにしたペーパークラフトなどが紹介されている。「学びでみよう」では、どんな配色や書体を使うと見栄えの良いプレゼンテーションができるかなど、デジタル化が進む中で役立つ知識をまとめている。

「感じよう・考えよう」では、遊び道具などのデザインを工夫し、コロナ禍で人々が絆を深められないかなどを考察している。

サイト名は「ART and DESIGN SUPPLEMENTS with post Corona」。企画を進めた芸術系社会貢献推進室の藤田直子教授(芸術系)は「足りない栄養を補うサプリメントのように人々を元気にし、新しい日常の時間を有意義に過ごすサポートができればうれしい」と語る。

金保副学長(産学連携担当)が今年5月、芸術系と体育系に「家庭でできるワークや運動など、コロナ禍でストレス解消などができる動画を発信したい」と依頼したことをきっかけに、取り組みが動き出した。芸術系は同室を中心に企画を進め、9月にサイトを開設した。動画は筑波大の公式ユーチューブでも、10月から公開されている。

同サイトのアドレスは(https://www.covid19-artdesign-univ-tsukuba.online)。半田美乃理(芸術系)は休みます。

似顔絵や塗り絵で笑顔届ける

オクトーバーフェスト

屋外でビールや食事を楽しめるイベント「つくばオクトーバーフェスト」が、10月9・11日につくばセンター広場(つくば市吾妻)で開催された。地域住民との交流を深めようと、筑波大生約30人が来場者の似顔絵描きや塗り絵ワークショップなど六つの企画を提供し、会場を盛り上げた。(三橋美音)教育学科1年、田所涼(同3年、12面に関連写真)

同イベントはアイリッシュに参加しており、学生たちもマスク着用や手指消毒などの対策をこまめに実施した。フィナンガンは、感染防止対策に取り組む事業者を登録する県の「つくばアマビエちゃん」は10、11日に実施された。

寺澤さんに似顔絵を描いてもらった筑波大の女子学生は、「可愛くて気に入った。データをもらったので、SNSのアイコンにしたい」と喜んでいた。

11日には「塗り絵ワークショップ」が開かれ、白抜きにしたオクトーバーフェストのポスターなどに色鉛筆で自由に色を塗る企画を子どもたちが楽しんだ。



当日の似顔絵やさんの様子(10月11日、つくばセンター広場で) =三橋美音撮影

フィナンガンは「似顔絵を描き、青やピンクなど現実とは異なる肌色を提案した。意外と受け入れられることが多く、奇抜な色遣いでお客さんに予想外のワクワク感を感じたい」と話した。

「作ってみよう」では、疫病退散の力を持つとされる妖怪アマビエをモチーフにしたペーパークラフトなどが紹介されている。

「感じよう・考えよう」では、遊び道具などのデザインを工夫し、コロナ禍で人々が絆を深められないかなどを考察している。

サイト名は「ART and DESIGN SUPPLEMENTS with post Corona」。企画を進めた芸術系社会貢献推進室の藤田直子教授(芸術系)は「足りない栄養を補うサプリメントのように人々を元気にし、新しい日常の時間を有意義に過ごすサポートができればうれしい」と語る。

金保副学長(産学連携担当)が今年5月、芸術系と体育系に「家庭でできるワークや運動など、コロナ禍でストレス解消などができる動画を発信したい」と依頼したことをきっかけに、取り組みが動き出した。

同サイトのアドレスは(https://www.covid19-artdesign-univ-tsukuba.online)。半田美乃理(芸術系)は休みます。

私の一本

生きとし生けるものは必ず死ぬ。しかし死者を悼み、あの世へとおくるのは人間だけである。弔いの儀式の痕跡は原始人類の発祥のころにまでさかのぼることができるといふ。葬儀とは人間を人間たらしめている根源的な文化の一つであるといえるだろう。

一方で死は穢れでもあり、肉体の腐敗は死の瞬間からはじまる。医療が高度化すればするほど死は管理された中での出来事となり、そうでなければ異常なこととみなされる人間関係の濃い田舎な

死から切り離れた現代的な社会で、死にまつわる職業という視点からユーモラスに、温かく描いたのが本作である。所属していたオーケストラが解散し、仕事を失ったチェロ奏者(本木雅弘)が、音楽の夢を捨てて新妻と共にご郷に帰る。ひょんなことから始めることになった仕事は納棺師であった。人間関係の濃い田舎な

私にとっては待望の過ぎやすい秋が来た。秋は着込めばなんともなるのいい。そう思っていたけれど、一度寒さで鋭敏になった肌や耳の感覚は秋特有の寂しさを帯びて離さない。こればかりは着込んでどうしようもなく困るものだ。一日炬燵を出して騙し騙し生活している。(吉川創揮)比較文化学類4年

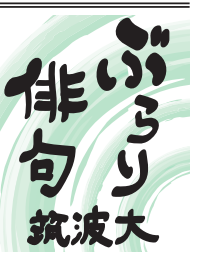
『おくりびと』 滝田洋次郎 監督

らではの偏見に傷つき、孤独死の凄惨な現場にシヨックを受けたりしながら、やがて仕事に意義を見出し、いく。

葬儀会社社長(山崎努)が行う死に化粧の鮮やかな手さばきに、参列者たちの表情が変わっていくのを目のあたりにして、主人公は心の中で「つづぶやく。冷静であり、正確であり、優しい愛情に満ちている」、「静謐で全ての行いがとても美しい。彼を感じ取ったのは音楽に通じる様式美なのである。妻(広末涼子)に「穢れらしい!」と罵声を浴びせられても、主人公がこの仕事にこだわる必然性が表れたシーンである。

生を脅かすものとしてではなく、むしろ生を豊にするものとしての死。映画の後半はこのテーマに注がれていく。モノとされた肉体にもう一度命を宿すには、イマジンナー

この映画を始めて観た時には、感動というか少し動揺してしまった。その時の自分が死をあまりリアルに捉えていなかったからだろう。おぞまざる見返してみたら、滋味が変わっていたのは、黄昏時が視野に入ってきたからなのだろうか。



第一エリアで廣間菜月撮影

等しき間取りで案山子の家族かな霜降や食器の音の一人分秋雨におさまる部屋やいくつ本

双峰祭など学内行事相次ぎ中止

どうなる 筑波大の学生文化

秋学期が始まって1カ月。例年なら筑波大学園祭(双峰祭)に向けて大学全体が活気づく時期だ。だが今年は、学内行事が次々と中止に追い込まれ、学生間の交流や文化系学生団体の成果発表の場が大幅に減った。そんな中、SNSでの発信や独自のイベントの実施に挑む団体も現れた。これからの筑波大の文化活動はどうなっていくのか。担い手である文化系の学生団体や、各行事の実行委員会の現状を追った。(天野隼太・山田優芽・北川瑠菜・北川瑠菜・比較文化学類 車谷郁美・後藤佳佳・社会学類 田所涼・遠子内早紀・教育学類 中山友晴・生物学類)

学園祭実行委員会

承に力を注いでいる。双峰祭では、模擬店やステージ発表、研究紹介などが企画され、来場者数は3日間5万人を超える。学実委は、各クラスから最低2人ずつ選出された1年生188人、2年生101人で構成される。4月以降はオンライン会議を週1回開いており、現在は準備や当日の運営を通して親睦を深める機会があった。双峰祭実行委員会の品川知輝委員長(人文3年)は「1年生同士が交流する場が失われてしまった。楽しみにしていた筑波大生、何より1年生に申し訳ない」と話した。



「UNITED ステージ」では毎年さまざまな企画が実施された(昨年11月4日、石の広場で) = 後藤佳佳撮影

双峰祭実行委員会

5月に予定されていた第46回双峰祭(やどかり祭)は、4月に中止が発表された。例年は、1年生を中心に、各クラスによる模擬店や、「ゆかたコンテスト」などの企画が2日間にわたって開催されてきた。双峰祭は、大学に入学したばかりの1年生同士が、生委員を中心に運営し、10月に約80人が入会している。だが、今年10月29日時点で1年生が約10人しか入会していない。例年は4「今年度の運営経験がないため、来年度どうすべきかよく分からない。うまく1年生に引き継げるかも不安だ」と語る。



御輿の練り歩きも双峰祭を盛り上げる(昨年6月1日、平砂共用棟前で) = 小池凜太郎撮影

1年生少なくて引き継ぎ不安

来年度の委員長を務める望月圭さん(応理2年)は「今年度の運営経験がないため、来年度どうすべきかよく分からない。うまく1年生に引き継げるかも不安だ」と語る。

活動模索する学生団体

双峰祭を1年間の活動の軸に据えてきた団体は、喪失感や不安を抱えながらも、新しい活動の在り方を模索し始めている。

筑波大学アカペラサークル DoorWood

18人の新入生が加わり、126人で活動中だ。双峰祭では、石の広場に設置されるメイン舞台「UNITEDステージ」や、後夜祭でパフォーマンスを披露していた。サークル内から見直さざるを得なかった。現在はSNSを活用し、新たな発信を試みている。



約7カ月ぶりの対面練習(10月19日、文化系サークル会館で) = 北川瑠菜撮影

SNSで魅力発信

筑波大学ヒーローアクション同好会

オリジナルヒーロー「研究学園戦士ツクバダイナ」のショーを運営する。脚本や音響、衣装制作など、全が自分たちで手掛ける。昨年は、学内やつくば市のイベントなどで計10回のショーを披露した。



双峰祭でのショーの様子 = 筑波大学ヒーローアクション同好会提供

ライブ開催「他団体のヒントに」

はじめ例年参加していた学内外のイベント5つが中止された。オンラインで週1回のミーティングをするだけだった。現在は団体での活動が再開し、10月12日から柔道場にて、新メンバー2人を含む10人で練習に励んでいる。



夜間練習に励むメンバー(10月20日、平砂共同利用棟で) = 後藤佳佳撮影

筑波大学天文研究会

春学期は新入生歓迎活動(新歓)以外、ほぼ活動が止まっていた。活動再開が許可された10月半ばからは、元の状態に戻り始めており、現在は新規メンバーを集める力を入れている。

双峰祭では、石の広場に設置されるメイン舞台「UNITEDステージ」や、後夜祭でパフォーマンスを披露していた。サークル内から見直さざるを得なかった。現在はSNSを活用し、新たな発信を試みている。

双峰祭では、石の広場に設置されるメイン舞台「UNITEDステージ」や、後夜祭でパフォーマンスを披露していた。サークル内から見直さざるを得なかった。現在はSNSを活用し、新たな発信を試みている。

双峰祭では、石の広場に設置されるメイン舞台「UNITEDステージ」や、後夜祭でパフォーマンスを披露していた。サークル内から見直さざるを得なかった。現在はSNSを活用し、新たな発信を試みている。



3年生の引退延期

スポーツ・デー
学生委員会

スポーツを通して学生同士の交流機会を設けてきたスポーツ・デー。今年は春と秋の両方が中止され、スポーツ・デー学生委員会内の引き継ぎや委員のモチベーションに影響が出た。サッカーやバレーボール



スポーツ・デー参加者(昨年11月17日、陸上競技場で) = 西村大祐撮影

3年は「中止はやむを得ないが、今までの頑張りがない」と肩を落す。学生委員は、3年生約20人と全学類・専門学群の各クラスから2人ずつ集められた1年生約200人で構成される。2、3年生が各種目の責任者などを担い、1年生はその補助をする。例年は、当日の運営を通して3年生から2年生に仕事を引き継いでいたが、今年はその引き継ぎが難しく、1、2年生だけで来春のスポーツ・デーを運営することと判断し、現3年生の引退を来年5月に延期することを決めた。

バーチャル藝祭

学園祭が中止になった大

学園祭が中止になった大勢の学生は、オンライン開催に舵を切った。その一つが東京芸術大(東京都台東区)だ。「大学生活の中で1番のビックイベントで、大切な作品発表の場。どんな形になっても必ず実施したい」。そんな信念を持ってオンライン学園祭「バーチャル藝祭」を成し遂げた。委員長の木村浩太さん(建築)

薬科2年)に話を聞いた。会場は本番前日まで修正を繰り返して作り上げた専用の特設サイト。9月4、6日にわたり開催した。学生の油絵やアニメーションなど305点が掲載され、19団体が事前収録した動画などを配信した。SNSでの反響が大きかったのは「バーチャルストリート」という企画だ。告知なしに突然歌や踊りなどを披露するグループなど、今後のキャリアにもつながる。このため、誰も経験したことがないオンライン学園祭の準備が始まった。ジャズの演奏

遠隔ゆえの利点も

「作品も多い」とも感じていた。例年の目玉企画は1年生が異なる専門の友人を作る。演奏会も例年、抽選や先着順で入場者を決めていたが、事前収録の動画を配信し、一定時間視聴可能にした今回は、より多くの人が楽しめ、好評を博したという。木村さんは「オンラインでも開催できたという実績を作ることで、今後の選択肢を広げたいと考えていた。演奏会の配信などは来年以降も継続することを検討している」と語った。



藝祭の特設サイト(10月29日、本紙編集室で) = 北川瑠菜撮影



小林真さん 筑波技術大学准教授

「手紙」は、足踏み入れたのは小4の春。現在の春日エリア近くの吾妻小に通いました。学園都市と言いつつ周囲は土だらけ。今なお「森」と呼ばれる筑波大は、まさに近所の森でした。ガンバラ作りに飽きる。自転車でペデを走り抜け、天久保池で魚釣り。そのほか剣道の公開講座を受けた。科学系イベントに参加したり、そこは遊びと学びのフィールドでした。「大学のキャンパスとはこういうもの」と刷り込まれた私は、「広くて楽しそうなきらい」と思うようになります。

Hello! 先端研究



杉山雄大准教授

運動、喫煙、飲酒などの生活習慣が関与し、発症の原因となる病気の総称だ。動脈硬化や糖尿病、高血圧、脂質異常症などが代表例で、日本人の死亡原因の約6割を占める。また、遺伝的要因も発症に関与することが知られている。

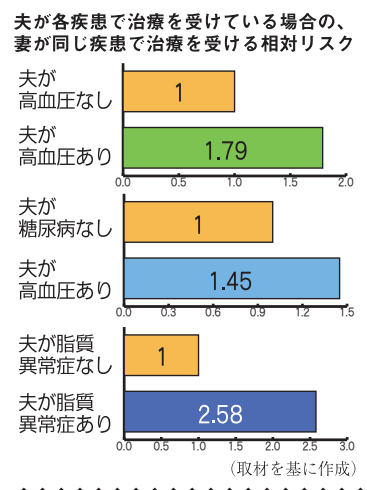
夫が治療を受けていない妻と比べ、同じ疾患で治療を受けている割合が高いと分かった。次に、夫婦の居住場所や経済状況、妻の年齢・学歴・飲酒・喫煙などの影響を調整した上で詳しく比較した。その結果、夫が各疾患

気にかかる傾向があるという。研究チームは今後、別のデータを用いても同様の結果が得られるかを確かめ、生活環境と各疾患とのより詳細な因果関係を調べる。杉山准教授によれば、日本では、医師が患者に対し、両親や兄弟など血縁者の生活習慣の有無を聞くことはあっても、配偶者について聞くことは少なかったという。杉山准教授はこの研究が

夫婦は同じ生活習慣病に 家族みんなで生活改善を

夫婦は同じ生活習慣病になりやすい。杉山雄大准教授(医学医療系)・田宮菜奈子教授(同)らの研究チームは、国民生活基礎調査Ⅱのデータを解析し、このよう

40歳以上としたのは、生活習慣病予防のため、国が実施する特定健診(メタボ健診)の対象だからだ。高血圧、糖尿病、脂質異常症の三つの疾患について回答を解析したところ、夫がそれらの疾患で治療を受けている場合は、妻も同じ疾患で治療を受けている割合が



夫が各疾患で治療を受けている場合、妻が同じ疾患で治療を受ける相対リスク

多様性の森を散策しよう

希望がなくなって無事入学。学年が進み、専攻を決める時期を迎えます。しかし、それでも絞りきれず、物理/物質分子/構造の三つ全てにまたがると言われた変換工学を

つづは足踏み入れたのは小4の春。現在の春日エリア近くの吾妻小に通いました。学園都市と言いつつ周囲は土だらけ。今なお「森」と呼ばれる筑波大は、まさに近所の森でした。ガンバラ作りに飽きる。自転車でペデを走り抜け、天久保池で魚釣り。そのほか剣道の公開講座を受けた。科学系イベントに参加したり、そこは遊びと学びのフィールドでした。「大学のキャンパスとはこういうもの」と刷り込まれた私は、「広くて楽しそうなきらい」と思うようになります。

現在、コロナの影響でオンライン授業が多くなり、あまりその恩恵を被ることができていないかもしれません。徐々に対面授業が増えることを願っています。日常的に体験できる多様性は、きっとあなたの価値観を広げ、卒業後の人生を豊かにしてくれるでしょう。ぜひ筑波大という多様性の森を散策して、専門の異なる友人をたくさん捕まえてみてください。(平成4年度基礎工学科卒、写真は本人提供)

箱根駅伝 予選会 チーム支えた2人のエース



練習に励む猿橋(右)と西(左) = 陸上競技部提供

【一面参照】10月17日に東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の予選会が開催された。今年1月の本戦で最下位に沈んだ悔しさを胸に、選手たちは2年連続での箱根路を目指した。結果は11位と本戦出場には届かなかったが、出走した12人のうち、11人が自己ベストを更新。猿橋拓己(社工4年)と西研人(体専4年)の2人が筑波大新記録を叩き出すなど、来年につながる走りを見せた。

陸上
予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。

予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。

予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。

予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。

予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。

予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。

予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。

予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。猿橋、スタートから先頭集団のペースを守り続けた。1時間43分43秒という好タイムで21・0975キロを走り、日本人2位に入った。西、4年生の2人では、今回の予選会が最後の挑戦。



コースを駆け抜ける小牧 = 日本学生オリエンテーリング連盟提供

小牧 激しく追い上げ優勝 日本学生選手権

【オリエンテーリング】日本学生選手権のロングディスタンス部門が10月18日にミツモチ山(栃木県矢板市)で開催され、筑波大は男子の部で小牧弘季(資源4年)が優勝を果たした。女子の部では、宮本和奏(地球4年)が3位となった。日本学生選手権の開催は約11カ月ぶり。新型コロナウイルスの影響で、今年3月に開催予定だった昨年度日本学生選手権のミドルディスタンス部門、リレー部門が開催中止、及び今年度のスプリント部門が開催延期となっていた。オリエンテーリングは、山野に設置されたポイント地図とコンパスを使って順番通りに通過し、ゴールまでの速さを競う。男子の部のコースは全長8・9キロ、高低差は最大600メートル、急斜面もある。小牧はレース序盤のポイント通過に時間を取られ順位を落としながらも、中盤から激しい追い上げを見せ、トップに立った。最後は2位を5分以上引き離し、1時間16分34秒で優勝に輝いた。

小牧は「今シーズンは学生相手に負けたことが無く、優勝しなければという気持ちが強かった。体力的につらいコースだったが、なんとか勝ててうれしい。12月のスプリント部門をはじめ、インカレの残り3種目も全て優勝できるように頑張っていきたい」と語った。(田所涼)

小牧は「今シーズンは学生相手に負けたことが無く、優勝しなければという気持ちが強かった。体力的につらいコースだったが、なんとか勝ててうれしい。12月のスプリント部門をはじめ、インカレの残り3種目も全て優勝できるように頑張っていきたい」と語った。(田所涼)

小牧は「今シーズンは学生相手に負けたことが無く、優勝しなければという気持ちが強かった。体力的につらいコースだったが、なんとか勝ててうれしい。12月のスプリント部門をはじめ、インカレの残り3種目も全て優勝できるように頑張っていきたい」と語った。(田所涼)

小牧は「今シーズンは学生相手に負けたことが無く、優勝しなければという気持ちが強かった。体力的につらいコースだったが、なんとか勝ててうれしい。12月のスプリント部門をはじめ、インカレの残り3種目も全て優勝できるように頑張っていきたい」と語った。(田所涼)

小牧は「今シーズンは学生相手に負けたことが無く、優勝しなければという気持ちが強かった。体力的につらいコースだったが、なんとか勝ててうれしい。12月のスプリント部門をはじめ、インカレの残り3種目も全て優勝できるように頑張っていきたい」と語った。(田所涼)

小牧は「今シーズンは学生相手に負けたことが無く、優勝しなければという気持ちが強かった。体力的につらいコースだったが、なんとか勝ててうれしい。12月のスプリント部門をはじめ、インカレの残り3種目も全て優勝できるように頑張っていきたい」と語った。(田所涼)

小牧は「今シーズンは学生相手に負けたことが無く、優勝しなければという気持ちが強かった。体力的につらいコースだったが、なんとか勝ててうれしい。12月のスプリント部門をはじめ、インカレの残り3種目も全て優勝できるように頑張っていきたい」と語った。(田所涼)

度(スプリント部門)が開催延期となっていた。オリエンテーリングは、山野に設置されたポイント地図とコンパスを使って順番通りに通過し、ゴールまでの速さを競う。男子の部のコースは全長8・9キロ、高低差は最大600メートル、急斜面もある。小牧はレース序盤のポイント通過に時間を取られ順位を落としながらも、中盤から激しい追い上げを見せ、トップに立った。最後は2位を5分以上引き離し、1時間16分34秒で優勝に輝いた。

オータムカップ 中央大に快勝

【バスケットボール】エスフォルタアリーナ八王子(東京都八王子市)で加藤優花II国際総合学類3年、写真も。12面に関連写真】12大学が参加するオータムカップが10月10日から11月7日まで開かれている。新型コロナウイルスの影響で関東大学リーグ戦が中止となり、特別措置で実施された。大会はトーナメント方式で、無観客で行われた。筑波大は初日に中央大と対戦。今年度初の公式戦で、序盤は主導権を握られたが、試合の流れを引き戻し、逆転勝利した。試合開始直後、相手に連続得点を許したが、笹山陸(体専2年)の3Pシューターや野本大智(同4年)の速攻で追い上げ、16・21で第1クォーターを終えた。第2クォーターは山口颯斗(同4年)の速攻などが決まって逆転し、40・34で後半を迎えた。第3クォーター前半は得点が入らない時間が続いた。だが、菅原暉(同4年)の連続得点を皮切りに、筑波大はゴール下や外から得点を重ねた。攻守の切り替わりが激しくなった第4クォーターは、野本が3Pシュートを決めると、木林



ゴール下でシュートを放つ山口 (10月10日、中央大戦で)

優(同1年)もゴール下で得点を挙げた。筑波大は71・53で初戦を突破した。主将の菅原は「今年度初の公式戦ということもあり、全体的に動きが硬かった。ディフェンスとリバウンド時の連携が課題だ」と話した。

優(同1年)もゴール下で得点を挙げた。筑波大は71・53で初戦を突破した。主将の菅原は「今年度初の公式戦ということもあり、全体的に動きが硬かった。ディフェンスとリバウンド時の連携が課題だ」と話した。

優(同1年)もゴール下で得点を挙げた。筑波大は71・53で初戦を突破した。主将の菅原は「今年度初の公式戦ということもあり、全体的に動きが硬かった。ディフェンスとリバウンド時の連携が課題だ」と話した。

優(同1年)もゴール下で得点を挙げた。筑波大は71・53で初戦を突破した。主将の菅原は「今年度初の公式戦ということもあり、全体的に動きが硬かった。ディフェンスとリバウンド時の連携が課題だ」と話した。

【水泳競技】日本学生選手権(インカレ)が10月1〜4日に東京辰巳国際水泳場(東京都江東区)で行われた。新型コロナウイルスの影響を受け、大会は無観客で開催された。1日の50メートル自由形では、込山瞳(体専2年)が、25秒48で準優勝した。肩の可動域と腕のストロークを集中的に鍛えて身に着けたダイナミックな泳ぎで、自己ベストを更新した。25秒59で4位だった昨年からの11秒縮めた。込山は「昨年は0・08秒の差で表彰台を逃し、悔しかった。自分の課題に向き合って練習した成果が出せた。今後は体幹トレーニングで、胴体のブレを改善したい」と話した。3日の200メートル個人メドレーでは、横田早桜(同3年)が2分13秒64で準優勝を果たした。100メートルバタフライでは、飯塚千通(同

【水泳競技】日本学生選手権(インカレ)が10月1〜4日に東京辰巳国際水泳場(東京都江東区)で行われた。新型コロナウイルスの影響を受け、大会は無観客で開催された。1日の50メートル自由形では、込山瞳(体専2年)が、25秒48で準優勝した。肩の可動域と腕のストロークを集中的に鍛えて身に着けたダイナミックな泳ぎで、自己ベストを更新した。25秒59で4位だった昨年からの11秒縮めた。込山は「昨年は0・08秒の差で表彰台を逃し、悔しかった。自分の課題に向き合って練習した成果が出せた。今後は体幹トレーニングで、胴体のブレを改善したい」と話した。3日の200メートル個人メドレーでは、横田早桜(同3年)が2分13秒64で準優勝を果たした。100メートルバタフライでは、飯塚千通(同

【水泳競技】日本学生選手権(インカレ)が10月1〜4日に東京辰巳国際水泳場(東京都江東区)で行われた。新型コロナウイルスの影響を受け、大会は無観客で開催された。1日の50メートル自由形では、込山瞳(体専2年)が、25秒48で準優勝した。肩の可動域と腕のストロークを集中的に鍛えて身に着けたダイナミックな泳ぎで、自己ベストを更新した。25秒59で4位だった昨年からの11秒縮めた。込山は「昨年は0・08秒の差で表彰台を逃し、悔しかった。自分の課題に向き合って練習した成果が出せた。今後は体幹トレーニングで、胴体のブレを改善したい」と話した。3日の200メートル個人メドレーでは、横田早桜(同3年)が2分13秒64で準優勝を果たした。100メートルバタフライでは、飯塚千通(同

【水泳競技】日本学生選手権(インカレ)が10月1〜4日に東京辰巳国際水泳場(東京都江東区)で行われた。新型コロナウイルスの影響を受け、大会は無観客で開催された。1日の50メートル自由形では、込山瞳(体専2年)が、25秒48で準優勝した。肩の可動域と腕のストロークを集中的に鍛えて身に着けたダイナミックな泳ぎで、自己ベストを更新した。25秒59で4位だった昨年からの11秒縮めた。込山は「昨年は0・08秒の差で表彰台を逃し、悔しかった。自分の課題に向き合って練習した成果が出せた。今後は体幹トレーニングで、胴体のブレを改善したい」と話した。3日の200メートル個人メドレーでは、横田早桜(同3年)が2分13秒64で準優勝を果たした。100メートルバタフライでは、飯塚千通(同

【水泳競技】日本学生選手権(インカレ)が10月1〜4日に東京辰巳国際水泳場(東京都江東区)で行われた。新型コロナウイルスの影響を受け、大会は無観客で開催された。1日の50メートル自由形では、込山瞳(体専2年)が、25秒48で準優勝した。肩の可動域と腕のストロークを集中的に鍛えて身に着けたダイナミックな泳ぎで、自己ベストを更新した。25秒59で4位だった昨年からの11秒縮めた。込山は「昨年は0・08秒の差で表彰台を逃し、悔しかった。自分の課題に向き合って練習した成果が出せた。今後は体幹トレーニングで、胴体のブレを改善したい」と話した。3日の200メートル個人メドレーでは、横田早桜(同3年)が2分13秒64で準優勝を果たした。100メートルバタフライでは、飯塚千通(同

【バスケットボール】関東大学リーグ戦(つくばカピオ(つくば市竹園)で細井真生II人文学類1年、加藤優花II国際総合学類3年)8大学で競う関東大学女子リーグ戦が9月21日から10月24日まで行われ、筑波大は5勝2敗で、3位となった。初戦から4連勝中の筑波大女子は10月11日、第5戦で東京医療保健大と対戦した。筑波大は、フィジカルが強くシュートを確実に決める相手に64・119で敗れた。



ディフェンスを突破する池田 (10月11日、東京医療保健大戦で) = 加藤優花撮影

【バスケットボール】関東大学リーグ戦(つくばカピオ(つくば市竹園)で細井真生II人文学類1年、加藤優花II国際総合学類3年)8大学で競う関東大学女子リーグ戦が9月21日から10月24日まで行われ、筑波大は5勝2敗で、3位となった。初戦から4連勝中の筑波大女子は10月11日、第5戦で東京医療保健大と対戦した。筑波大は、フィジカルが強くシュートを確実に決める相手に64・119で敗れた。

【バスケットボール】関東大学リーグ戦(つくばカピオ(つくば市竹園)で細井真生II人文学類1年、加藤優花II国際総合学類3年)8大学で競う関東大学女子リーグ戦が9月21日から10月24日まで行われ、筑波大は5勝2敗で、3位となった。初戦から4連勝中の筑波大女子は10月11日、第5戦で東京医療保健大と対戦した。筑波大は、フィジカルが強くシュートを確実に決める相手に64・119で敗れた。

【バスケットボール】関東大学リーグ戦(つくばカピオ(つくば市竹園)で細井真生II人文学類1年、加藤優花II国際総合学類3年)8大学で競う関東大学女子リーグ戦が9月21日から10月24日まで行われ、筑波大は5勝2敗で、3位となった。初戦から4連勝中の筑波大女子は10月11日、第5戦で東京医療保健大と対戦した。筑波大は、フィジカルが強くシュートを確実に決める相手に64・119で敗れた。

【バスケットボール】関東大学リーグ戦(つくばカピオ(つくば市竹園)で細井真生II人文学類1年、加藤優花II国際総合学類3年)8大学で競う関東大学女子リーグ戦が9月21日から10月24日まで行われ、筑波大は5勝2敗で、3位となった。初戦から4連勝中の筑波大女子は10月11日、第5戦で東京医療保健大と対戦した。筑波大は、フィジカルが強くシュートを確実に決める相手に64・119で敗れた。

陸上 関東インカレ 高良ら4人優勝

関東学生対抗選手権(関東インカレ)が日程を分けて開催されている。10月9日(11日)には相模原ギオンスタジアム(神奈川県相模原市)で短距離や跳躍、投てき種目を中心に実施された。筑波大は女子走幅跳の高良彩花(体専2年)が昨年に続いて優勝するなど、26人が17種目で入賞した。9月の日本学生対抗選手権(日本インカレ)に続き、筑波大は好成績を残した。

陸上

関東インカレは例年、5月に開催されている。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で各大学の部活が25日に混成競技が、11月22、23日に長距離種目が実施される。入賞者の順位を点数化した各大学が合計点を競う対校戦は、今年度限り実施が見送られた。



3回目で6.09を記録し優勝を決めた高良の跳躍＝陸上競技部提供

跳では、高良が2年連続の優勝を果たした。1日の日本選手権で優勝した高良は「U-20日本記録の6.44を更新することが目標」と臨んだが、6.09にとどまった。日本選手権の疲れが残る中で大会となり、「雑な跳躍を止めた」と振り返った。

そのほか、女子1部では100mの三浦由奈(同1年)が11秒64、やり投の兵藤秋穂(同3年)が49.48で優勝した。

10日の男子1部や2部では、堤洗太郎(同1年)が初優勝した。雨の中の投てきとなったが、1回目で63.96を記録。これが優勝記録となり、初出場ながら1位に輝いた。今大会の結果を受け、堤は「きちんと投げ切ることができた自分を評価したい。4連覇を目標に、日本インカレなど大きな大会でも戦える選手を目指す」と話した。

筑波大は1年生が5人入賞するなど、下級生が結果を残した大会となった。主将の桑添友花(同4年)は「(大会の)開催時期が遅れたことで、3年生以下が主体となって活躍してくれたい」と話した。

この日チーム最多の7得点を挙げた鈴木隆介は「最初のシュートが決まり、落ちていくプレーで良かった。今日は今までにない最高の出来だった。1回限りにならないよう、日々練習を頑張りたい」と話した。

藤本元監督(体育系・准教授)は「今のチームは相手に対して戦える。速攻が課題だったが、後半は相手の攻撃を読み切り、早く相手陣地にボールを運ぶ効果的な攻撃ができた」と語った。



相手を振り切りシュートを放つ三輪(10月3日、法政大戦で)

大量得点で法政大に圧勝 秋季リーグ戦

ハンド

【坂東市総合体育館(茨城県坂東市)で速子内早紀(教育学科3年)写真も】10大学で競う関東学生男子秋季リーグ戦が9月13日から10月18日にかけて行われた。31日まで開催予定だったが、複数大学で新型コロナウイルスの感染者が発生し、最終順位決定戦は中止された。筑波大は中止前の成績により、3位となった。

10月3日の第3戦は法政大と対戦。相手を終始圧倒し、34-16で勝利した。筑波大は試合開始直後からペースを握り、前半は相手陣地にボールを運ぶ効果的な攻撃ができた」と語った。

千葉県出身。幼い頃から運動が大好きで、走ることに得意だった。幼稚園や小学校の運動会の短距離走はいつも一番だった。

「高校で専門的な指導を受けたい」と思った。しかし、県記録会を最後に自己ベストが更新できなくなっていた。何度走っても体が力んでしまふ。「優勝して当たり前」という雰囲気を周囲から感じていた。期待に応えたいと、全国で戦う自信をついた。

「高校で専門的な指導を受けたい」と思った。しかし、県記録会を最後に自己ベストが更新できなくなっていた。何度走っても体が力んでしまふ。「優勝して当たり前」という雰囲気を周囲から感じていた。期待に応えたいと、全国で戦う自信をついた。

高校最後の国体では自己ベストこそ更新できなかったが、100mで準優勝を果たした。「正直2位は悔しかったが、原点に戻ったように伸び伸びと走れた」と話す。筑波大を卒業した高校社会学科1年、写真は本人提供

連携プレーで攻撃生む

この日チーム最多の7得点を挙げた鈴木隆介は「最初のシュートが決まり、落ちていくプレーで良かった。今日は今までにない最高の出来だった。1回限りにならないよう、日々練習を頑張りたい」と話した。

藤本元監督(体育系・准教授)は「今のチームは相手に対して戦える。速攻が課題だったが、後半は相手の攻撃を読み切り、早く相手陣地にボールを運ぶ効果的な攻撃ができた」と語った。

千葉県出身。幼い頃から運動が大好きで、走ることに得意だった。幼稚園や小学校の運動会の短距離走はいつも一番だった。

「高校で専門的な指導を受けたい」と思った。しかし、県記録会を最後に自己ベストが更新できなくなっていた。何度走っても体が力んでしまふ。「優勝して当たり前」という雰囲気を周囲から感じていた。期待に応えたいと、全国で戦う自信をついた。

高校最後の国体では自己ベストこそ更新できなかったが、100mで準優勝を果たした。「正直2位は悔しかったが、原点に戻ったように伸び伸びと走れた」と話す。筑波大を卒業した高校社会学科1年、写真は本人提供

早くから準備をしていた。スタッフやコーチから励まされ、思い切ったプレーで「きた」と語った。

西浦 サヨナラ安打 優勝校・日体大に逆転

野球

首都大学野球秋季リーグ戦が9月19日から10月18日に開催され、筑波大は3勝2敗で4位となった。そのほか、女子1部では100mの三浦由奈(同1年)が11秒64、やり投の兵藤秋穂(同3年)が49.48で優勝した。

10月18日の最終戦は優勝校の日体大と対戦。10回表に先制点を奪われるも、その裏に代打西浦謙太(体専1年)のサヨナラ安打で逆転し、2-1で勝利した。先発の佐藤幸輔(同3年)を残した大会となった。主将の桑添友花(同4年)は「(大会の)開催時期が遅れたことで、3年生以下が主体となって活躍してくれたい」と話した。

この日チーム最多の7得点を挙げた鈴木隆介は「最初のシュートが決まり、落ちていくプレーで良かった。今日は今までにない最高の出来だった。1回限りにならないよう、日々練習を頑張りたい」と話した。

藤本元監督(体育系・准教授)は「今のチームは相手に対して戦える。速攻が課題だったが、後半は相手の攻撃を読み切り、早く相手陣地にボールを運ぶ効果的な攻撃ができた」と語った。

千葉県出身。幼い頃から運動が大好きで、走ることに得意だった。幼稚園や小学校の運動会の短距離走はいつも一番だった。



10回裏に2点適時打を放った西浦＝硬式野球部提供

スポーツの顔

陸上

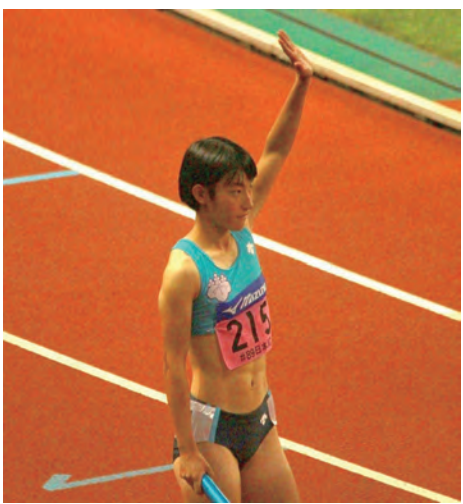
高校1年生時、競技を始めて7カ月で全国入賞を果たした。競技歴は3年半と短い。昨年1月には、東京五輪女子リレーの二期プロジェクトメンバーにも選出された。注目の新人だ。

短距離の100mと200mを専門とする。レース直前のルーティン点を挙げた鈴木隆介は「最初のシュートが決まり、落ちていくプレーで良かった。今日は今までにない最高の出来だった。1回限りにならないよう、日々練習を頑張りたい」と話した。

藤本元監督(体育系・准教授)は「今のチームは相手に対して戦える。速攻が課題だったが、後半は相手の攻撃を読み切り、早く相手陣地にボールを運ぶ効果的な攻撃ができた」と語った。

千葉県出身。幼い頃から運動が大好きで、走ることに得意だった。幼稚園や小学校の運動会の短距離走はいつも一番だった。

「高校で専門的な指導を受けたい」と思った。しかし、県記録会を最後に自己ベストが更新できなくなっていた。何度走っても体が力んでしまふ。「優勝して当たり前」という雰囲気を周囲から感じていた。期待に応えたいと、全国で戦う自信をついた。



東京五輪女子リレー プロジェクトメンバー

景山 咲穂 (体専1年)

心の底から楽しんで走れない日々が半年ほど過ぎたとき、顧問の一言で意識が変わった。「負けや失敗を恐れず挑戦すること、そして、自分のために競技をやりたい」。重圧から解放され、レースを楽しむようになった。高校最後の国体では自己ベストこそ更新できなかったが、100mで準優勝を果たした。「正直2位は悔しかったが、原点に戻ったように伸び伸びと走れた」と話す。筑波大を卒業した高校社会学科1年、写真は本人提供

五輪見据え 自分のために

早くから準備をしていた。スタッフやコーチから励まされ、思い切ったプレーで「きた」と語った。

教員負担浮き彫り

オンラインの可能性も発見

コロナ禍に見舞われた大学で教員や学生は、オンライン授業の活用を前向きに受け止めても、これまでとは異なる授業の在り方に負担や戸惑いも感じていた。本紙や筑波大が実施したアンケートで、こんな実情が明らかになった。大学はこの経験を今後どう生かそうとしているのか。教員や担当副学長に取材した。

(西村大祐、後藤佳博、遠子内早紀)

睡眠時間削って 授業を準備

本紙が今年9月、教員を対象に実施したアンケートでは、回答者の8割がオンライン授業導入で負担が「増えた」「どちらかと言えば増えた」と答えた。

その後の本紙の取材で浮かんだのは、具体的なノウハウがないまま、時間をかけて、試行錯誤で授業の準備に臨んだ教員の姿だ。

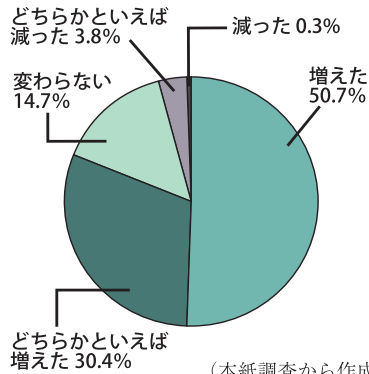
森本健弘講師(生環系)は「オンライン授業の経験がなく、あらゆることが大変だった」と振り返る。春学期開始当初は、一つのオンライン型授業の収録に、授業時間の約2倍の時間がかかった。ノイズや聞こえ方も気を遣う必要があり、睡眠時間が減った時期もあったという。

新保奈穂実助教(同)は「オムニバス方式の授業で世話を焼いたが、オンライン型や同時双方向型など教員ごとに希望する授業方法が異なるため、調整が大変だった」と話した。

一方、教員の多くはオンライン授業を今後も活用していくことに前向きだ。本紙アンケートでは、対面授業の再開後にオンライン授業を行うことに、7割が前向きに答えている。

「英語で授業」が前向きに答えている。

オンライン授業は従来の対面授業と比べ、教員の負担は増えましたか、減りましたか。



(本紙調査から作成)

が「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた。新保助教は「遠方に居住する非常勤講師が講義しやすくなる」と話した。これからは、フランスに住む教員が来日する機会に、筑波大で授業をしていく。また、議論をする授業で、オンラインなら国内外問わずどこからでも参加できるため、「専門性が高く、受講生が少ない授業に海外を含む他大学から参加者を募る」とも、多くの人と議論ができる」と話した。

安野嘉晃教授(医学医療系)は、これまでも技術的には可能だったオンライン授業がコロナ禍で広く普及したと指摘した。従来の対面型の授業では地理的な制約が多かったが、オンライン授業は場所に縛られない。大学が全学群・大学院生を対象に実施した「オンライン授業に関する学修状況等の実態調査」の最終報告が、10月15日に公表された。学群生の多くが課題の多さや友人との交流の難しさ、ストレスを感じており、春学期中に授業が改善されなかったと答えた学群生が

学生の意見踏まえ 改善策実施へ

一定数いると分かった。大学は調査結果を踏まえ、学生同士の意見交換の場を設けるなど、教員が留意すべき点を通知した。教学マネジメント室と教育推進部が学習管理システム「mana」を使い

「mana」を使い



検証 教員・学生双方 意識疎通難しく

教員の声に対する受け止めや、今後の授業の在り方を清水副学長(教育担当)と、教学マネジメント室長の山中敏正教授(芸術系)に聞いた。(聞き手・西村大祐、後藤佳博)

約8割の教員が負担の増加を感じていた。清水副学長 大きな問題だ。大学としても色々と支援を試みたが、十分ではなかったというところだ。授業動画の具体的な作り方や、技術面のサポートがもっとできれば良かった。山中室長 春学期は教員

の増加を感じていた。清水副学長 大きな問題だ。大学としても色々と支援を試みたが、十分ではなかったというところだ。授業動画の具体的な作り方や、技術面のサポートがもっとできれば良かった。山中室長 春学期は教員

オンライン授業で困ったこと

- ・課題が多かった **70.2% (3124人)**
- ・画面を長時間見ることに疲れた **67.8% (3019人)**
- ・授業に関する友人との情報交換ができなかった **52.5% (2335人)**

(筑波大の資料から作成)

7月6日から8月7日に実施した。回答者は6401人(対象者の38.6%)、有効回答者は6388人、学群生は4450人、が寄せられた。

が寄せられた。

「併用授業への支援急務」

併用授業への支援急務。清水副学長 両方の準備をしなければならぬので、支援が必要だと認識しているが、具体的には今後の課題だ。山中室長 対面授業とオンライン配信・収録を併用する授業で費を維持するには、複数のカメラや場面を切り替える機器、それらを活用できる専門知識、コミュニケーションを支える体制(ティーチング・アシスタントなど)の充実が必要だ。現在は十分な機器を話せるようになった。中学校は日本語が必修で、本格的に勉強を始め

この頃、日本における外国人児童・生徒の教育を受け、教学マネジメント室は秋学期授業に向けての留意点をまとめた。▽学生が質問できる場が70.2%(3124人)、「課題が多かった」と回答。▽画面を長時間見ることに疲れた」が67.8%(3019人)、「授業に関する友人との情報交換ができなかった」が52.5%(2335人)と続いた。

自由記述では、「教員からの連絡手段や課題の提出形式を統一してほしい」と教員からのフィードバックが通じて教員に伝えた。調査では、春学期中に授業の内容と方法が改善され

たかも聞いた。学群生では、「改善された」が13.6%(605人)、「やや改善された」が59.3%(2637人)、「最初から問題はなかったが、5.1%(229人)で、計78%だった。しかし、22%(979人)は「改善されなかった」と答えた。

たかも聞いた。

留学生の声

韓国 シン・イナ (教育学類)

「日本は第二の故郷だ」といふ。留学生にもかわらぬ、中学・高校の国語科教職課程を履修し、小学校と特別支援学校の教員免許取得も目指す。学群3年生ながら、今年度春学期までの累計修得単位数は160を超える努力家だ。



母語や障害に応じた教育に情熱

育問題に興味を持った。ユチューブで偶然見つけたドキュメンタリー番組がきっかけだった。日本の朝鮮学校が財政難で校庭を売却し、運動場所がなくなるなど子供が困窮している。日本の大学受験を決めたのは高校3年生の6月だ。韓国の大学の日本語を学ぶことに決めた。

物に着付けを体験した。姉妹校の生徒が韓国に来た際は、語学力を生かして通訳を担当した。日本の大学受験を決めたのは高校3年生の6月だ。韓国の大学の日本語を学ぶことに決めた。

り、他学類の授業が履修しやすく幅広い学びができる筑波大の教育学類を志望校の一つに選んだ。だが、受験は思うように進まなかった。年明けから東京の私立大を何校か受けたが、不合格。渡航費もかさむため、2月の筑波大受験は止めようとしたが、高校の先生に最後まで粘るよう励まされた。諦めず勉強を続け、筑波大に合格した。

入学後は、日本語が母語ではない外国人の子供など「教育マイノリティ」と呼ばれる子供たちについて学んできた。日本の学校で学ぶ場合、日本語の遅れは学習の遅れにつながる。特に関心を寄せるのは、障害を抱えた外国人児童・生徒の存在だ。19年1月、学生ボランティアとして特別支援学

学を目指した。日本語教育に定評がある

母語や障害に応じた教育に情熱

母語や障害に応じた教育に情熱。姉妹校の生徒が韓国に来た際は、語学力を生かして通訳を担当した。日本の大学受験を決めたのは高校3年生の6月だ。韓国の大学の日本語を学ぶことに決めた。

り、他学類の授業が履修しやすく幅広い学びができる筑波大の教育学類を志望校の一つに選んだ。だが、受験は思うように進まなかった。年明けから東京の私立大を何校か受けたが、不合格。渡航費もかさむため、2月の筑波大受験は止めようとしたが、高校の先生に最後まで粘るよう励まされた。諦めず勉強を続け、筑波大に合格した。

入学後は、日本語が母語ではない外国人の子供など「教育マイノリティ」と呼ばれる子供たちについて学んできた。日本の学校で学ぶ場合、日本語の遅れは学習の遅れにつながる。特に関心を寄せるのは、障害を抱えた外国人児童・生徒の存在だ。19年1月、学生ボランティアとして特別支援学

学を目指した。日本語教育に定評がある

たかも聞いた。

学群生では、「改善された」が13.6%(605人)、「やや改善された」が59.3%(2637人)、「最初から問題はなかったが、5.1%(229人)で、計78%だった。しかし、22%(979人)は「改善されなかった」と答えた。

自由記述では、「教員からの連絡手段や課題の提出形式を統一してほしい」と教員からのフィードバックが通じて教員に伝えた。調査では、春学期中に授業の内容と方法が改善され

が寄せられた。

「受験応援」動画配信で

受験生の不安解消が目的

筑波大学園祭雙峰祭実行委員会は、雙峰祭(例年実施していた「受験応援」を、今年は動画形式で実施し、11月6日からユチューブで公開する。動画は事前に収録されたもので、公開期間は約1カ月を予定している。

今年はその代わりに、9月15日からツイッターで中高生を対象にアンケートを実施した。質問が多かった「模試の振り返り方や、対面授業の頻度」などのテーマについて、学群ごとに委

員が答えた映像を、30分程度にまとめて公開する。委員長の高岡杏さん(障害2年)は「コロナ禍で変化した大学生活を、大学生の口から伝えられる貴重な機会だ。サークル活動の自粛が求められる中、キャンパス内は撮影できなかったが、受験生の励みになれば幸いだ」と話した。

校を訪問し、知的障害を持つ韓国人の生徒と出会った。そうした子供たちの存在は日本国内ではあまり認識されておらず、日本語を教えながら、適切な支援ができる教員も少ない。その現状にショックを受けた。それ以降「マイノリティ」の中の「マイノリティ」の存在を意識し始めた。現在は、母語や障害特性に応じた支援方法を研究している。

参加する筑波大学社会福祉研究会の活動の一環で、土浦市の小学生への学習指導ボランティアにも毎週参加する。「母語ではない日本語で学んだ経験を生かし、日本で教育マイノリティの子供たちを支援する仕事をした。弱者に向ける視線は優しい。(関根健史)国際総合学類1年、写真は本人提供)

員が答えた映像を、30分程度にまとめて公開する。委員長の高岡杏さん(障害2年)は「コロナ禍で変化した大学生活を、大学生の口から伝えられる貴重な機会だ。サークル活動の自粛が求められる中、キャンパス内は撮影できなかったが、受験生の励みになれば幸いだ」と話した。

学生が質問できる場設置へ

一定数いると分かった。大学は調査結果を踏まえ、学生同士の意見交換の場を設けるなど、教員が留意すべき点を通知した。教学マネジメント室と教育推進部が学習管理システム「mana」を使い

団体での課外活動 申請受付開始

「学生交流の柱」再開へ

感染防止策の徹底条件に

筑波大は10月1日、「課外活動における団体活動開始ガイドライン」を発表した。感染防止策などを明記した「団体活動開始届」を学生生活課にメールで提出し、許可を得た学生団体は、団体活動を再開できる。これまでは一部の特例を除き、個人での課外活動だけが認められていたが、今後は複数人での活動が可能となる。

(後藤佳佳、三橋美貴、12面に関連写真)



筑波大学歌留多部も、マスク着用・換気徹底のもと練習を再開した(10月25日、文化系サークル会館で)＝後藤佳佳撮影

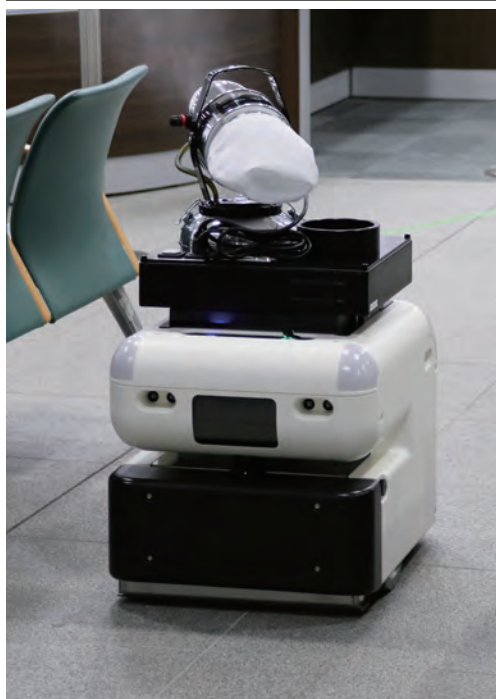
ガイドラインは活動の参入しない。活動場所は屋内か屋外によって状況が異なるため、加人数や活動時間について、外か、大きな声を出す必要がないか、といった制限は設けていく。このため基本ルールとして、各団体の学生代表責任者は、健康管理担当者や活動履歴管理担当者などを定めなければならない。健康管理担当者には、活動参加者の14日間の健康観察記録を顧問教員に報告し、活動履歴管理担当者は活動の日時・場所・参加者名などを記録し、保管する。

市役所に導入されたのは、サイバーダインの「CL02」。縦、横、高さとも約50センチの箱型で、上部に除菌液の噴霧器が付いている。QRコードに記録した物を感知し、避けながら除菌情報を読み取り、自律除菌作業する。今年3月に走行する。センサーで障害は、羽田空港に導入されている。

団体活動開始届は、各団体の活動開始希望日5日前の午前10時までに提出する。学生生活課によると、10月23日時点で、届出があった159件のうち150件が許可された。▽感染防止策の記載が不十分▽毎年更新が必要な学

り、現在は11月に開催予定の「東京吉野会大会(C級)」に向け、新入部員も合わせた約20人で、週3回練習に励んでいる。部員の日高晴さん(比文2年)は「軒並み中止されていた大会も少しずつ再開している。大会がないと練習のモチベーションも上がらない。目標に向けて頑張るのほうれい」と笑顔で話した。

市役所本庁舎では、職員が1階の来客用椅子や記録台などの除菌作業をしている。導入には、2次感染の防止や職員の負担軽減を図る狙いがある。CL02を開発したサイバーダインの平松宏介さん(平成24年度知能機能システム専攻修了)は「試験導入で得られたデータを機能の改良につなげ、広く社会で使われるようにしたい」と語った。



座席の間を移動しながら除菌するCL02(10月14日、つくば市役所本庁舎で)

留学フェア オンラインで初開催

「渡航再開に今から備えを」

筑波大の留学の仕組みを紹介する「秋期留学フェア」が10月15～30日にオンラインで開催された。例年は大学会館で実施していた。グローバル・ commons機構の主催で、体験談や各プログラムの説明など、全14回のイベントをオンライン会議システム「Teams」や「Zoom」で実施した。参加者は延べ約800人になった。一部のイベントの録画はTeams内で11月末まで視聴できる。視聴のための情報はTWINsに掲載されている。(車谷郁美)社会学類1年、北川瑠菜、工藤和哉)

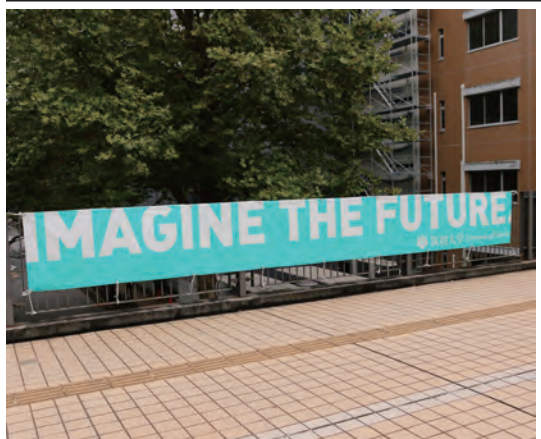
初日は、筑波大生のため「実施。Teamsを使って海外留学ガイドブックを開かれ、約80人が参加した。16日の「経験者に聞いてみる」留学体験談と相談会では、米国やインドネ

ツなど、さまざまな質疑も行った。参加した心理学類1年の学生は「北欧やスペインに興味があったが、東南アジアもいろいろあった。担任に相談するなど計画的に準備を進めたい」と話した。20日開催の「LAMS de Abroad」では、タイやフィリピンなど東南アジアの留学体験者が語り合う様子も配信された。現地の中を食べて高熱を出した失敗談や、就職活動での留



オープニングイベントで法被を身につけ留学制度を説明する職員(10月15日、1A棟で)＝北川瑠菜撮影

学経験の生かし方などを和やかな雰囲気でも話した。フェアは毎年春と秋の2回開催されているが、今春は新型コロナウイルスの影響で中止となった。同機構の糸井智香・国際事業係長は「オンラインで



歩道橋に架けられている「IMAGINE THE FUTURE」の横断幕(10月17日、第一エリアで)

「IMAGINE THE FUTURE」は筑波大の理念を表すブランドスローガンだ。故・山田信博前学長が推進したブランドイングの1環で、コピーライターの一倉宏さん(昭和52年度人文学類卒)が制作した。後にスローガンを冠したメッセージングが作られた。入学式や筑波大学祭(雙峰祭)で歌われ、ス



筑波発! キャンパスことば

あいていーえふ「ITF」(名)①筑波大学のスローガン「IMAGINE THE FUTURE」の略。②筑波大学を指す。「ITF」とSNSのプロフィール欄に記載して筑波大学所属を表す学生もいる。

Who's Who?

「未踏 I T人材発掘・育成事業」に企画案が採択

大淵 雄生 さん (メ創2年)



同窓会でほほ笑む大淵さん=本人提供

天才的なIT人材の発掘を目指す情報処理推進機構(IIPA)の「未踏IT人材発掘・育成事業」(未踏)に企画案が採択された。

提案したのはアプリの作成を効率化するソフトウェア開発だ。9カ月の開発期間中は専門家の指導が受けられ、最大270万円強の開発費も支給される。

「高校時代から憧れていた事業だった。起業につなげたい」と夢を語る。

提案したソフトでは、入力画

面のイメージをデザインするだけで、その画面を表示するプログラムを自動生成してくれる。アプリでは、入力画面がよく出てくる。似たプログラムを何度も書く手間が省けるため、アプリ作成の効率化が期待できるという。

小学生の頃から工作好きで、テレビを分解したり、振動で進むおもちゃを携帯電話の部品と歯ブラシで作ったりしていた。プログラミングに興味を持ったのは中学生の時。「新世紀エヴァンゲリオン」に登場する

敵からのハッキング攻撃に対抗するシーンに憧れた。「これやりたい!」と思った瞬間だった。高校に入り、本格的にプログラミングに取り組んだ。入学祝いに父親からMacBookを譲り受け、高校1年の夏休みにプログラミングスクールの受講を始めた。

8月末が締め切りだった中高生向けのアプリ開発コンテスト「アプリ甲子園」への応募を目標に、プログラミングの基礎勉強とアプリ開発を同時進行させた。

作成したのは「DANMARK ER」というシューティングゲーム。自分で舞台や敵を設定できる。プログラミングを学び始めて1カ月で完成させた。まだ学習していない三角関数の知識が必要で苦戦したが、結果は3位入賞。「うれしかった反面優勝できなかったことが悔しくもあった」。

翌年の「アプリ甲子園」には

小学生のころから工作が好き アプリ作成の効率化を目指す

「Find Family」というアプリで応募した。認知症の高齢者が徘徊した時、靴に埋め込んだGPS発信機で位置を確認できる。認知症の曾祖父が靴を履くことだけは忘れないことから考えた。

1日13時間、食事と入浴以外の時間をアプリ開発に費やす日々を2カ月間続けた。実用性の高さが評価され、念願の優勝を果たした。GPSなどのハードウェアを扱うのは初めてで、靴に収まるサイズに調整するのが大変だった」と話す。

筑波大入学後には、大学の国際産学連携本部が主催する「アントレプレナーシップ・デベロップメント」に参加した。研究開発の成果を事業化する方法を学び、ソフトを投資会社に売り込むプレゼンも行った。

その際に企画したのが、インターネットにつながった電子機器など(IoT)がどのようにハッキングされるかを学べる

「Find Family」というアプリで応募した。認知症の高齢者が徘徊した時、靴に埋め込んだGPS発信機で位置を確認できる。認知症の曾祖父が靴を履くことだけは忘れないことから考えた。

1日13時間、食事と入浴以外の時間をアプリ開発に費やす日々を2カ月間続けた。実用性の高さが評価され、念願の優勝を果たした。GPSなどのハードウェアを扱うのは初めてで、靴に収まるサイズに調整するのが大変だった」と話す。

筑波大入学後には、大学の国際産学連携本部が主催する「アントレプレナーシップ・デベロップメント」に参加した。研究開発の成果を事業化する方法を学び、ソフトを投資会社に売り込むプレゼンも行った。

その際に企画したのが、インターネットにつながった電子機器など(IoT)がどのようにハッキングされるかを学べる

「Find Family」というアプリで応募した。認知症の高齢者が徘徊した時、靴に埋め込んだGPS発信機で位置を確認できる。認知症の曾祖父が靴を履くことだけは忘れないことから考えた。

1日13時間、食事と入浴以外の時間をアプリ開発に費やす日々を2カ月間続けた。実用性の高さが評価され、念願の優勝を果たした。GPSなどのハードウェアを扱うのは初めてで、靴に収まるサイズに調整するのが大変だった」と話す。

筑波大入学後には、大学の国際産学連携本部が主催する「アントレプレナーシップ・デベロップメント」に参加した。研究開発の成果を事業化する方法を学び、ソフトを投資会社に売り込むプレゼンも行った。

その際に企画したのが、インターネットにつながった電子機器など(IoT)がどのようにハッキングされるかを学べる

「Find Family」というアプリで応募した。認知症の高齢者が徘徊した時、靴に埋め込んだGPS発信機で位置を確認できる。認知症の曾祖父が靴を履くことだけは忘れないことから考えた。

1日13時間、食事と入浴以外の時間をアプリ開発に費やす日々を2カ月間続けた。実用性の高さが評価され、念願の優勝を果たした。GPSなどのハードウェアを扱うのは初めてで、靴に収まるサイズに調整するのが大変だった」と話す。

筑波大入学後には、大学の国際産学連携本部が主催する「アントレプレナーシップ・デベロップメント」に参加した。研究開発の成果を事業化する方法を学び、ソフトを投資会社に売り込むプレゼンも行った。

その際に企画したのが、インターネットにつながった電子機器など(IoT)がどのようにハッキングされるかを学べる

「Find Family」というアプリで応募した。認知症の高齢者が徘徊した時、靴に埋め込んだGPS発信機で位置を確認できる。認知症の曾祖父が靴を履くことだけは忘れないことから考えた。

1日13時間、食事と入浴以外の時間をアプリ開発に費やす日々を2カ月間続けた。実用性の高さが評価され、念願の優勝を果たした。GPSなどのハードウェアを扱うのは初めてで、靴に収まるサイズに調整するのが大変だった」と話す。

筑波大入学後には、大学の国際産学連携本部が主催する「アントレプレナーシップ・デベロップメント」に参加した。研究開発の成果を事業化する方法を学び、ソフトを投資会社に売り込むプレゼンも行った。

その際に企画したのが、インターネットにつながった電子機器など(IoT)がどのようにハッキングされるかを学べる

「選挙割」で学生の投票啓発



投票日当日もチラシを配り、宣伝に励んだ(10月25日、つくば駅で) = 後藤佳怜撮影

2面へ

つくばオクトーバーフェスト



「塗り絵ワークショップ」で地域住民と交流する筑波大生(10月11日、つくばセンター広場で) = 田所涼撮影

5面へ

男子バスケ オータムカップ開幕



相手を振り切りゴールに切り込む笹山(10月10日、中央大戦で) = 加藤優花撮影

8面へ

文化系団体も続々と活動再開



対面での試合練習に取り組む筑波大学歌留多部(10月25日、文化系サークル会館で) = 天野隼太撮影

11面へ

学内総合

学芸

スポーツ

学生生活

編集後記

秋学期開始から1カ月余り。対面授業と団体での課外活動の再開で学内のにぎわいも戻りつつあります(11面)。本紙でも1年生と一緒に取材する機会が増えました。緊張した初々しい姿を見て、やっと始まったキャンパスライフを充実させてほしいとの思いが募ります。▼今号では、キャンパスライフにも影響する大きな出来事がありました。学長選挙です(1、2面)。筑波大では、教職員組合から質問状が出されるなどの動きもありました。永田恭介学長は会見で「結果をもた

編集・発行

筑波大学新聞編集委員会
 ▼委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学
 ▼副委員長 佐藤勲(学生部長) ▼委員 菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学、竹中佳彦(人文社会学系・教授) 政治学

次号は
12月14日(月)

発行予定です

発行所 筑波大学

印刷 ヒラマ写真製版

ほかに編集部員21人